

夏の花苗の移植に適した鉢の大きさの調査

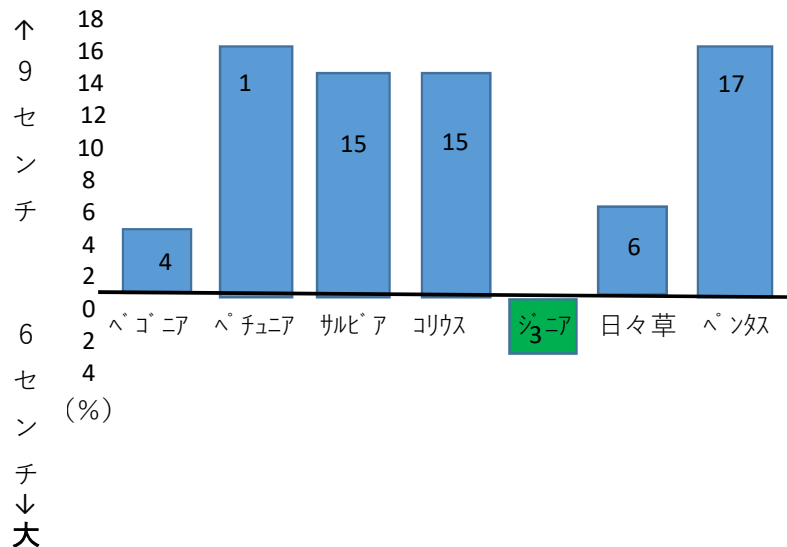
研究背景 植物が必要とする水分量は種類ごとに違うため、鉢の保水力は植物の生長の速さを大きく左右する。鉢の大きさの違いが生長に及ぼす影響を調べることで、その植物に適した鉢の大きさと灌水量を推測し過灌水による生長の遅れや枯死を防ぐことができる。

成果要約 夏の花7品種のうち、6品種で9cmポットが生長が早く、1品種で6cmポットの方が生長が早かった。特にコリウス、ペチュニアでは鉢の大きさによる生育差が大きかった

今後の展望 栽培過程で過灌水によると思われる枯死が多発する品種もあったので最適なポット、用土を総合的に検討し育苗の効率化を検討する。

概要

大



(図1) 夏の花苗におけ9cmポットと6cmポットの生長比較

【調査方法】

夏の花苗7品種(※1)を選び、稚苗を9cmと6cmの黒丸ポリポットに荒い土(※2)を用いて48株移植し、3週間後に長い葉と短い葉の長さを測定した。測定値から大きさの割合を算出し、その平均値をグラフ(図1)にして比較した。

【調査結果】

7品種のうち、6品種で9cmの黒丸ポリポットの方が成績が良く、特にペチュニア、サルビア、コリウス、ペンタスにおいて9cmポットの方が生育が特に良かった。ただし、サルビア、ペンタス、日々草では9cmポットで栽培中に枯死するものが多く、成績が良くても製品化率が悪い品種もあった。

【※1】試験栽培に使用した品種

ペゴニア：ペゴニアセパン フローレンスアンバ サダーローズ、ペチュニア：ショククエーブ パープル
サルビア：ホットジャズ スペシャル、コリウス：ハイウェイ混合、日々草：エエター混合
ジニア：プロフェッショナル、ペンタス：グラティエーOGピンク

【※2】荒い土

普通土は当センターの花苗ポット栽培用に調製した標準用土を排水を良くするために荒くしたもので、赤玉土：鹿沼土：パーミキュライト：パーライト：ピートモスを4：4：2：2：1で混ぜ、マグアンプと有機石灰をそれぞれ、0.5%加えたもの。

事業名 本調査・研究は、令和3年度 農業振興センター 農業振興事業（温室花苗鉢花試験栽培）により実施しました。

問合せ先 ☆詳しい情報を知りたい、という方は下記までお気軽にご連絡ください。
姫路市役所 産業局 農林水産部 農業振興センター 〒679-2111 兵庫県姫路市山田町多田1174番地47
電話番号：079-263-2220 ファックス：079-263-2708 E-mail：engei@himeji.city.lg.jp